

はちおうじししょうがいしゃちいきじりつしえんきょうぎかい
八王子市障害者地域自立支援協議会
へいせい ねん ど だい かいそうかい ぜんたいかい かいぎろく
平成24年度第1回総会(全体会) 会議録

(開催日時) 平成24年6月19日(火) 10:00~12:00

(開催場所) 市役所本庁舎事務棟8F 802会議室

(出席者)

・委員24名出席

まつい しょうすけ なかにし しょうじ おおすか ひろこ たかはし よしひと やまもと まこと どい ゆきひと ただ やすし
塚田 芳昭、風間 美代子、芝 敏子、大窪 卓真、井上 美文、崎田 京子、山同 美空
まつお しょうじ うちだ いたろう うじひら けいこ なかにし よしこ さかもと こういち うへだ ひろみ たまる としひこ
松尾 隆司、内田 伊太郎、氏平 啓子、中西 好子、坂本 好一、上田 広美、田丸 俊彦
ひらまつ けいこ たけした りんぺい かとう やすたけ
平松 慶子、竹下 倫平、加藤 保武

・障害当事者委員支援者(知的サポーター)2名出席

みつおか よしひろ しんかわ てつし
光岡 芳宏、新川 哲史

(欠席者) 1名欠席

おおた よしひこ
大田 吉彦

(事務局) まつひら こうれいしゃ しょうがいしゃたんどうぶちょう ほそいしょうがいしゃふくしつかちょう やまもとしゆき ふるさわしゆき
松日樂高齢者・障害者担当部長、細井障害者福祉課長、山本主査、古澤主査、
まつだしゆき さくらだしゆき いのうえしゆき しみずしゆき おがわしゆじ あらいしゆじ
松田主査、櫻田主査、井上主査、清水主査、小河主事、荒井主事)

1 開会

・松日樂高齢者・障害者担当部長挨拶

まつひら) 4月1日の人事異動に伴い、新たに部長となりました松日樂です。本日はお忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。4月から「障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」が施行されました。条例ができただけで終わらせるのではなく、障害者が住みやすいのみならず高齢者や市民全ての人々が安心して暮らせる地域の実現に向けて行政としても進めていきますので、皆様にもご協力をお願いします。また10月には虐待防止法も施行されます。今後、意識啓発などに努めていきますが、その中心的な役割として自立支援協議会の活動にも期待しております。よろしくお願ひします。

・以降は、中西会長が進行。

・事務局より資料確認

平成23年度の障害福祉計画進行管理について

事務局 井上主査より報告

4 - (1) 福祉施設の入所者の地域生活への移行

項目	考え方の	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
施設入所者数	平成23年3月31日現在の全施設入所者数	356人	356人	356人	356人	グループホーム・ケアホーム等への地域移行はあまり進まなかったものの、新規の入所者も少なく、施設入所者全体としては1人減となった。	
地域生活移行者数	平成26年度未だに施設入所者からグループホーム・ケアホーム等へ地域移行する予定者の数(割合については、地域生活移行者数を平成17年10月1日時点の全入所者364人から除いた値)	37人 10.16%	61人 16.76%	85人 23.35%	110人 30.22%	平成23年度の地域生活移行者数が4人にとどまったため、平成17年10月1日からの累積移行者数は35人となり、目標値を若干下回った(平成24年4月1日時点の地域生活移行者1名あり)。	現在までの地域移行実績、施設入所者本人の意向を踏まえ、平成26年度未だに、平成17年10月1日時点の施設入所者の3割以上が、グループホーム・ケアホーム等の地域生活へ移行することを目標とする。
削減見込	平成26年度未だに削減見込(割合については削減見込数を全入所者から除いた値)	0人 0%	0人 0%	0人 0%	0人 0%	削減目標値なし	削減目標値なし

4 - (2) 入院中の精神障害者の地域生活への移行

項目	考え方の	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
現在	現在の退院可能精神障害者数(東京都の調査結果をもとに算定)	221人				1年以上精神病院に入院していた方が市内のグループホームや、退院促進支援事業の支援により都内の自宅等へ戻った人数、年度当初の見込み数は下回ったが、1年以上入院していた人数も減少傾向にある。	市は国や都の考え方にそって数値目標は設定しないが、退院後の生活を継続して支えるための体制づくりや、生活基盤の整備に努める。(国は、平成26年度を目途に平均退院率を7%相当分増加させる。5年以上かつ65歳以上の退院者数を現在よりも20%増加させる。都は1年未満の平均退院率を7%維持・向上させる。1年以上の入院の退院率を29%以上とする。)
減少数	上記のうち、平成26年度未だに減少を目指す数	111人				65歳以下の1年以上の入院患者数は、減少傾向にあり、平成17年度当初に掲げた111人という数値は上回った。	

4 - (3) 福祉施設から一般就労への移行等

項目	考え方の	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
労務移行者数	平成26年度において一般就労する者の数(平成17年度において、八王子市障害者就業・生活支援センターの登録者で平成17年4月1日において、一般就労していた障害者のうち、年度末で就労が定着した者の数(24人)の2倍)	48人	48人	48人	48人	ここ数年、40名前後で推移している。知的障害者については、求職者の利用登録が減少しており就労者の増加がやや伸び悩んでいる。精神障害者については、平成17年度当時と比べると増加幅が大きい。	引き続き、地域の就労移行事業所等福祉施設との連携を図りながら求職者の育成に取り組み、就労移行者の増加に取り組む。また、今後、障害者雇用率の引き上げが見込まれることから、新規雇用を行う企業等への啓発、雇用環境調整を進める。
労務定着者数	平成26年度において就労定着する者の数(八王子市障害者就業・生活支援センターの登録者で平成17年4月1日において、一般就労していた障害者のうち、年度末で就労が定着していた者の数)	38人 79%				毎年、新規学校卒業生(就職内定)を含め、60名以上の一般就労者が増加し、定着支援を継続している。実績については、目標数値を大きく上回った。	引き続き、毎年大きな増加が見込まれる就労者への定着支援を行い、目標達成を目指す。

・質疑応答

松井) 上段の「目標年度の年間一般就労移行者数」では求職者が伸び悩みとなっているが、下段の「目標年度の年間一般就労定着数」では一般就労者の増加が見込まれる、となっている。福祉的就労からの移行が伸び悩んで、他の一般の就職がうまくいっているということか？

氏平) 上段はふらんの支援で就労した人数です。ふらんに登録する新たな求職者自体の減少が原因です。下段はこれに加えて、特別支援学校の支援で就職内定した人数も含んでいます。こちらは毎年増えています。

松井) 知的障害者の「就労移行支援事業」は就労を目標としているが、この表を見ると目標を達成できていないように見える。

氏平) 知的障害者の就労希望者が少なくなっている印象はある。知的の受け入れ先は限られてしまい、一人の就労希望者の取り合いになる場合もある。就労定着できない人が増えているというよりも軽度の知的障害で就労を希望する層が薄くなっているように思う。

中西) 精神の方はどうですか？

山本) 一般論的には同じだと思う

風間) 精神対象の求職者は多く月に7、8人がトライするがなかなかうまくいかない。3障害だと身体・知的障害の求人は多いが、精神対象の求人は少なく、また採用試験を撥ねられることも多く、厳しい状況である。

土居) 確認すると上段はあくまでふらんが支援した就職数と考えていいのか？本来は市内の就労移行事業所からの就職数も必要ではないか

氏平) 市内の就労移行事業所からの就労者の多くはふらんを使っているので、ふらんと就労移行事業所を併用している人もこの数字に含まれている。

土居) タラントなどはどうか？

氏平) タラントは精神障害の就労支援施設だが国の制度で運営しているので市の計画には含んでいない。但し利用者のは事業所「ジネス」と併用しているので数字は出せるかも。

氏平) 厳密に言えば、支援を使わず直接就労した人や施設のみ支援で就労した人は数字が拾えないので入っていない。

土居) 市からの補助で「日中活動系サービス推進事業補助金」の加算メニューで就労実績の有無で出る加算がある。ここから数字を出せないか？

荒井) 補助の加算メニューなので、申請する事業所としない事業所がある。全ての事業所が加算の有無に関わらず申請するよう制度を変えられるか検討してみる。

細井) 福祉施設からの就労移行については数字として把握できるのは市が委託しているふらんからの数字しかない。直接就職する場合や市外の事業所を通じて就職した場合などは把握しきれない。この数字は平成26年度までの数値目標なので、平成26年度以降の見直しで考えていきたい。

山本) 次の計画については数字の拾い方に関して、市の支援を通じての就職と民間作業所を通じての就職などを分けたデータが出る方が実態に即して望ましい。

土居) 数値目標としては平成26年度以降かもしてないが、実態把握としてはもっと早くから動いてもいいのでは？

ただ) 知的障害の求職者の利用登録が減少しているのは就職を辞めてしまったのか？

氏平) 就職を辞めたという訳ではなく、近年、多くの方が就職したという事実もある。個人的な感覚だが、就労希望者自体が減ってきているように感じる。

夢田) 八王子は就労移行事業所が多いのか？

氏平) それほど多くはない。

夢田) 特別支援学校からの就労率はどのくらいか

坂本) 特別支援学校の卒業生の就労率は3割程度。一般就労を希望してもスムーズな就労はできていない現状。南大沢学園の就労率は8割程度。都内全体では4割程度。本校としてはあまり良くなって来ているという実感はあまりない。

中西) 当事者さんはどうですか？

田丸) 知的障害で仕事を見つけられない人は少なくない。誰もが就職できる環境づくりはしてほしい。

平松) 精神障害者も、知的障害者同様そんなにスムーズには就職できていない。

大窪) 障害特性上、精神障害者は同じ仕事で続かない人が多い。同じ人が就職と退職を繰り返していることもある。

中西) そういった時、ジョブコーチとか相談できる人はいますか？

大窪) 人によりけりだと思う。元々通所していた施設と連携することもある。

夢田) 重度身体障害者の就労状況は？

氏平) ぶらんの利用者として身体障害者自体が少ないが重度の方も何人かいる。

5 - (1) 訪問系サービス

項目	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
居宅介護 重度訪問介護 行動援護 同行援護 重度障害者等包括支援	目標値	530,000	540,000	610,000	650,000	現在の訪問系サービスの利用者数、障害者等のニーズ、入院中の精神障害者のうち地域生活への移行後に居宅介護等の利用が見込まれる者の数、平均的な一人当たりの利用時間等を勘案して、利用者数及び量の見込みを定める。	
	実績	640	690	740	790		
	時間分(上段)						
	利用者数(下段)	479,631					
		626					

・質疑応答

松井) 訪問系サービスについて軽度の方が多いというのがあったが、なぜ重度の人の利用は少ないのか？

細井) 重度の利用者が少ないというよりも、利用時間数の少ない(=軽度)の利用者が増えている。

ヘルパー制度が周知されたことと制度の窓口が広がったことで、今まで利用していなかった人たちが利用するようになってきているという背景がある。

中西) 各相談事業所への実態の相談は？

塚田) 大きな増減はないと思う。特段、重度の人が制限されている感触もない。居宅介護が減って重度訪問介護が増えているわけでもない。

まつお 塚田さんと同様です。

大須賀)特に重度障害者においては、時間数は増やしたいが、時間がサービス種別ごとで区切られてる居宅介護等はサービスが限定されるので重度訪問介護への移行を希望する相談は受ける。

市ではなかなか時間数の増を認めてもらえないが、特に重度の人の場合、家族の負担や地域で暮らしていくためにも、柔軟に時間数の対応をしてほしい。

山本)重度訪問介護を制限しているわけではない。あくまでケースバイケースで必要性を判断している。

大須賀)利用者にとって在宅か施設かはとても大きな問題。在宅で支援できる枠組みがあるなら、介護の必要性に応じた支援があることを周知をしてほしい。

中西)今、自立支援法の中でも、重度訪問介護を知的や精神に適用していく動きもあるので今後の動きを見ていきたい。

塚田)身体・知的の人に比べて精神の人のホームヘルプの利用が難しい。現状維持のためにも個別の事案を踏まえた継続的な支援が必要だと思う。

風間・山本)その通りだと思う。精神障害者故の個別の事由を踏まえて欲しい。

櫻田)確かに個々の状況で事情は異なる。給付内容を一度決定すると簡単には減らせない現状。

病状が安定しないなら訪問看護との使い分けをしっかりと検討する必要があるのではないかと。一律に支給を厳しくしているというわけではない。あくまで現状に合った支援の必要性を考えている。

山本)精神の人の特性として、手続きに手間取ると途中で諦めてしまって支援を断ってしまうこともある。まず使ってみて、その後もモニタリングで検証するようなことはできないのか。

細井)確かにヘルパーの時間数の決定は難しい。障害程度区分だけでなく必ず訪問して、その人の状況・特性を調査した上での決定をしている。また正式な形ではないがケースによってはモニタリングに近いこともしている。例えば依存傾向が強い人に過剰に時間数を出すとそれに慣れてしまって自立の意欲がなくなる事例もあるので難しい。

中西)身体の人の場合、昔に比べ一時的な事情に応じて時間数の増減が比較的出来ているが、精神はサービスが始まってからの歴史の浅さから来る難しさがある。当事者はどうですか。

大窪)周りは比較的うまくやっている人が多い。

風間)依存に関しては難しい。依存まで行く人もいれば、逆に調子が悪くなったからと言ってヘルパーを断る人もいる。ちょっとしたことで調子を崩してしまうので、周りの支援者がいつも気を回す必要がある。時間数が多ければ(少なければ)良い、とは一概には言えない。

大窪)ヘルパーの意味をわかっている当事者が少ない。なんでも屋と考えてしまう人が多い。「介護」の意味がなかなか伝わらない。

風間)何が必要かを当事者が判断するのは難しい。

大窪)話を楽しみにしている人も多い。

細井)今の制度で話し相手としてヘルパー派遣というのは難しい。

5 - (2) 日中活動系サービス
生活介護

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
生活介護	人分	目標値	900	950	1,050	1,150	施設の新法移行が順調に進み、実績値が目標値を上回った。	現在の施設利用者数や障害者のニーズ等を勘案して、利用者数を見込む。
		実績	912					

・質疑応答

芝) 特別支援学校の卒業生のうち重度障害者の受け入れ先がなかなか無い。生活介護は数として増えているが、実態は重度について対応できない施設が多い。現状を踏まえた上での分析をして欲しい。短期入所についても、同じように希望通りに取得できない実態も把握しておいてほしい。

細井) 重心障害者のニーズについては特別支援学校の父兄からも話がある。市の直営でサービス提供事業所を増やすのは財政上難しい。みなさんの協力あつての事なので周知はしているが、なかなかうまくいっていない。新規施設の立ち上げに関してはそういったニーズを踏まえて欲しいと話している。

中西) モニタリングの中で市が取り上げにくいニーズは発信していく必要がある。

自立訓練(機能訓練)

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
自立訓練(機能訓練)	人分	目標値	2	3	3	3	ほぼ計画どおり(市内に機能訓練施設なし)	市内に対象施設がなく、利用期間が定められていることから、現時点と同程度の利用者数を見込む。
		実績	3					

自立訓練(生活訓練)

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
自立訓練(生活訓練)	人分	目標値	35	37	39	40	施設の態勢が充実し、特に市内施設の一つが想定以上の利用者を受け入れたため、実績値が目標値を大幅に上回った。	現在の施設利用者数や障害者のニーズ等を勘案して、利用者数を見込む。
		実績	53					

・質疑応答

松井) 生活訓練は一か所しかないのに「施設の態勢が充実し」というのは表現として適当か? 態勢の充実よりも現行の体制の中で施設が努力した結果に見える。

井上) 特に削っても支障はないので、検討します。

細井) 実際には、以前は施設自体が市内にはなく利用者も数名だった。ここで施設が事業を開始し人数も大幅に増えたので、こういった表現にしました。

就労移行支援

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
就労移行支援	人分	目標値	140	150	160	170	施設の新法移行や一般就労への移行が順調に進み、計画どおりの実績値となった。	現在の施設利用者数や障害者のニーズ、福祉施設利用者への一般就労への移行の数値目標等を勘案して、利用者数を見込む。
		実績	140					

・質疑応答

山本) 就労移行支援は利用期限が2年間で、一般就労を目指す仕組み。利用者が増えたから就労移行が進んだという評価はおかしい。あくまで訓練の場所が増えたということなのではないか? 表現を変えて欲しい。

細井) 確かにこれは就労移行支援施設の規模の数字。

就労継続支援

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
就労継続支援(A型)	人分	目標値	5	5	7	10	ほぼ計画どおり(市内に就労継続A型なし)	現在の施設利用者数や障害者のニーズ等を勘案して、利用者数を見込む。
		実績	6					
就労継続支援(B型)	人分	目標値	650	750	850	950	施設の新法移行が想定以上に進んだため、実績値が目標値を大きく上回った。	現在の施設利用者数や障害者のニーズ等を勘案して、利用者数を見込む。
		実績	772					

療養介護

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
療養介護	人分	目標値	2	39	39	39	計画どおり(市内に療養介護施設なし)	現在の利用実績に加え、法改正に伴い、18歳以上の加齢児が障害者自立支援法で一元化され、区市町村の対象者に組み込まれたため。
		実績	2					

放課後等デイサービス(児童デイサービス)

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
放課後等デイサービス(児童デイサービス)	利用者数	目標値	190	240	290	330	新規施設の増加により利用者が増えたものの、利用者数の伸びが鈍り、延利用者数とともに実績値が目標値を下回った。市内児童デイサービス施設(こすもす(すぎな愛育園)、ドリームボックス東中野、ばんびーの、おひさま)	放課後等デイサービス事業の新規開始に伴う、児童デイサービス及び地域グループからの移行等を勘案して、利用者数を見込む。(平成24年度中に、無認可の地域グループ14施設のうち10施設が放課後等デイサービスに移行予定)
		実績	11,000	13,500	16,500	19,000		
	延利用者数	目標値	164					
		実績	9,391					

短期入所

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
短期入所	利用者数 (上段)	目標値	270	280	290	300	新規施設の増加及び障害者の介護者からのニーズの高まりにより利用者が増加し、ほぼ計画どおりの実績値となった。	現時点の利用者数を基礎として、障害者のニーズや新たな利用者の伸びを勘案して、利用者数を見込む。
		実績	11,500	12,000	12,500	13,000		
	延利用者数 (下段)	目標値	267					
		実績	11,185					

5 - (3) 居住系サービス

共同生活援助、共同生活介護

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
共同生活援助	人分	目標値	85	90	95	100	施設の整備が進み、利用者が増加したため、ほぼ計画どおりの目標値となった。	福祉施設からグループホーム又はケアホームへの移行者について、施設入所者の地域生活への移行の数値目標が達成されるよう、現時点の利用者数や障害者の
		実績	84					
共同生活介護	人分	目標値	250	270	290	310	施設の整備が進み、利用者が増加したため、実績値が目標値を上回った。	入所中の精神障害者のうち、地域生活への移行後、共同生活援助又は共同生活介護の利用が見込まれる者の数等を勘案して、利用者数を見込む。
		実績	263					

・質疑応答

中西) 施設の数はどれくらいか？また、それは市内施設の数が？

井上) 80程度です。市内の障害者が利用している施設数なので施設が市内とは限らないです。

施設入所支援

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
施設入所支援	人分	目標値	356	356	356	356	旧法施設の新たな移行が想定より遅れ、平成24年4月に移行した事業所が多かったため、実績値が目標値を下回った。	平成26年度末までに、平成17年10月1日時点の施設入所者の3割以上が地域生活へ移行するとともに、平成26年度末の施設入所者数が現時点の入所者数を超えないことを目指す。
		実績	320					

5 - (4) サービス利用計画作成(指定相談支援事業)

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
相談支援	人分	目標値	20					
		実績						

6 - (1) 相談支援事業

障害者相談支援事業

項目	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明	
相談支援事業所	箇所	目標値	5	5	5	5	「びあらいふ」、「あくせす」、「サポート南多摩」、「待いの夢」に加え、平成22年6月1日より「八王子地域生活支援室高尾」で事業を開始し、平成23年度までに合計5箇所へと整備拡充してきている。各事業所では、障害者が地域において主体的に生活していくための、ライフステージに即した情報の提供や総合的な相談体制を充実させ、相談件数は年々着実に増えている。	現在の5箇所の事業所体制を維持堅持し、虐待・差別の対応等の相談支援体制を機能強化推進していくため、箇所数は変動なしで見込む。
		実績	5					

・質疑応答

崎田) 情報の周知が十分でない。市内に相談事業所が5か所あることも知らない当事者もいる。

例えば、市から当事者に書類を送付するとき相談事業所についても周知できないか。

細井) 相談事業所の周知については、差別禁止条例のガイドブックへ掲載する予定です。福祉のしおりやホームページにも掲載されている。しかし、結局見ない人はなかなか見ないので、逆に作業所の内部で機会があるときに周知してもらえるとありがたい。

山同) 民生委員には障害者の情報が入って来ない。地域で活動するので障害者の一覧などをあると、こちらからの周知も出来ると思う。情報提供はできないのか。

細井) 実際、あまり民生委員との繋がりが薄い。数年前には聴覚障害者の方との懇談会は行ったことはありました。

中西) 相談事業所と民生委員の方とのつながりを考えたい。

土居) 災害の際の要援護者の方などのネットワークなども関係していると思う。今後対応してほしい。

松日樂) 要援護者に対しては避難支援組織を地域で立ち上げようと考えている。中心は町会になる。個人情報の問題はあるがその際の情報共有については考えていきたい。

中西) 自立支援協議会の中でも要援護者については話し合いを設けたい。

坂本) 卒業生の相談先が見えない。児童相談所や子ども家庭支援センターは18歳で利用できなくなる。就労についてはふらんなどで支援してもらっているが、施設入所についてや家庭の問題など多岐にわたる問題は相談支援事業所へ持ち込んで良いのか？

中西) 今後話し合っていきたいテーマです。

6 - (3) コミュニケーション支援事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
手話通訳協力者・要約筆記協力者等派遣	延派遣件数	目標値	2,200	2,250	2,300	2,350	目標値を下回ったが、22年度実績数1809件からほぼ横ばいで推移している。 (手話通訳協力者 1,576件、要約筆記協力者 156件、手話通訳者 279件、要約筆記者 71件)	市民への事業内容の周知を図るとともに、手話通訳協力者・要約筆記協力者の登録数を増やす必要がある。
		実績	2,082					

・質疑応答

松井) ニーズはあるが対応できる担い手がいないから、増やしていきたいという判断でいいのか。

細井) その通りです。今後は市としても手話通訳の養成講座の育成は図りたい。要約筆記については養成講座の時間数を増やしている。手話通訳講座も都内では充実している方です。

多田) 手話通訳に比べて、要約筆記はアピールされていないように思う。件数はどちらが多いか。

細井) 要約筆記の件数は少ないのが実態。利用者にとってどちらが都合が良いか勘案してサービスを提供している。例えば毎週実施しているタウンミーティング「市長と語る」といったイベントでは手話通訳と要約筆記両方を付けている。なお、要約筆記については、担い手が余り多くないので、必ず付けてほしいというときはなるべく事前に相談してほしい。

6 - (4) 日常生活用具給付事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
日常生活用具給付事業	給付件数	目標値	10,280	10,383	10,493	10,601	給付種目により耐用年数(毎月交付する種目から10年、11か月、1年、1年未満)があり、毎年給付件数は変動するが、全体的に障害者数が増加していることから、交付件数は増加傾向にある。	新規及び再給付者の増加を見込む(給付種目により耐用年数が異なるため、種目ごとの給付件数は年ごとに増減するが、全体の給付件数としては増加を見込む)。
		実績	10,306					
介護・訓練支援用具	給付件数	目標値	60	61	62	63		
		実績	54					
自立生活支援用具	給付件数	目標値	150	152	153	155		
		実績	134					
在宅療養等支援用具	給付件数	目標値	120	122	123	125		
		実績	127					
情報・意思疎通支援用具	給付件数	目標値	130	132	133	135		
		実績	208					
排泄管理支援用具	給付件数	目標値	9,800	9,900	10,000	10,100		
		実績	9,765					
小規模住宅改修費	給付件数	目標値	20	21	22	23		
		実績	18					

6 - (5) 移動支援事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
移動支援	利用者数	目標値	600	650	700	750	視覚障害者の同行支援への移行が24年度以降へずり込んだため、利用者数、延利用時間数ともに実績値が目標値を上回った。	過去の支給実績及び視覚障害者の同行支援への移行を勘案して、利用者数及び延利用時間数を見込む。
		実績	628					
	延利用時間数	目標値	78,000	84,000	90,000	96,000		
		実績	83,121					

6 - (6) 地域活動支援センター事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
地域活動支援センター	箇所	目標値	1	1	1	1	計画どおり	現在の地域活動支援センターは、型で以前から精神障害者地域生活支援センターとして運営しており、平成18年10月以降自立支援法への移行が必須となり、機能を残したまま相談事業と合わせて実施することと事業継続をしてきた経緯があるため、変動なしで見込む。
		実績	1					

6 - (7) 巡回入浴サービス事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
巡回入浴サービス	延利用者数	目標値	1,670	1,700	1,800	1,900	前年度より、利用者が増えたため、実績値が目標値を上回った。	現時点の利用者数を基礎として、障害者のニーズや新たな利用者の伸びを助成して、利用者数を見込む。
		実績	1,704					

6 - (8) 自動車運転教習費・自動車改造費助成事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
自動車運転教習費	助成件数	目標値	7	11	11	11	18歳以上の運転免許適性試験に合格した身障手帳1-3級(内部4級下肢・体幹5級以上)及び愛の手帳所持者の自動車運転教習費の一部を助成。予算確保のためもあり目標値を設定しているが、年度によって申請件数にばらつきがあり計画値を下回った。	申請件数は、年度によってばらつきがあり、予測しがたい。一定の予算を確保する必要があり、制度を周知したなかでの助成件数を見込む。
		実績	3					
自動車改造費助成	助成件数	目標値	10	14	14	14	18歳以上の身障手帳(上肢・下肢・体幹)1-2級所持者が所有する自動車の操作装置・駆動装置の改造費を助成。年度により申請件数にばらつきがある中で計画値を下回った。	申請件数は、年度によってばらつきがあり、予測しがたい。一定の予算を確保する必要があり、制度を周知したなかでの助成件数を見込む。
		実績	6					

6 - (9) 点字・声の広報発行事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
点字広報等発行	部数	目標値	1,384	1,360	1,360	1,360	地域生活支援事業として各所管課が行う事業に対して補助金を申請するものであるが、目標値をやや下回った。	主に、市広報・市議会だより・選挙広報・予防接種のお知らせ等の発行実績を助成して部数を見込む。
		実績	1,172					
声の広報等発行	部数	目標値	2,897	2,740	2,740	2,740	地域生活支援事業として各所管課が行う事業に対して補助金を申請するものであるが、目標値をやや下回った。	主に、市広報・市議会だより・選挙広報・予防接種のお知らせ等の発行実績を助成して部数を見込む。
		実績	2,500					

6 - (10) 障害者日中一時支援事業

項目	単位		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成23年度実績に関する説明	平成24年度以降の目標に関する説明
障害者日中一時支援	延利用者数	目標値	1,900	2,100	2,300	2,500	障害者の介護者からのニーズの高まりにより利用者が増加し、ほぼ計画どおりの実績値となった。	過去の支給実績及び事業所の新規開設による利用増を見込む。
		実績	1,841					

まとめ

井上)以上の内容は委員からの意見として取りまとめて、次回以降のモニタリングの際に対応していく。

3 部会の活動状況について

権利擁護推進部会

土居部長より報告

- 部会は3月に発足してから既に3回実施している。
- 部会員は相談支援事業所を中心に商工会、社会福祉協議会、医療、教育、障害当事者といった各分野の人で構成
- 5月1日付け「広報はちおうじ」で「障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」と障害当事者の座談会等の記事を掲載
- 現在では10月6日にクリエイトホールで行う記念講演会にむけて準備中
毎日新聞の論説委員の野沢さんに講演をしてもらう予定
障害差別の事例についてのロールプレイを実演予定
障害理解に関係した映像作品を上映予定
- また、講演会で配布する条例と障害特性について市民周知するためのガイドブック(小冊子2千部、リーフレット4千部)も作成中

地域移行・継続支援部会

山本部長より報告

- 部会の打ち合わせを2月から8回行っている。第1回の部会は7月に開催予定
- 部会の基本テーマは「机上の検討ではなく、地域でその人が望む暮らしを支えるために、行政、支援者、当事者、市民が、課題を共有し、具体的な方策を考え、実行する部会」(仮)
- 今年度のほうしんは、地域の地域移行・継続にかかる現状を共有すること。そのための事例検討を行う。また同時に具体的な施策提言のため調査・研究チームとして八王子市内の実態を調査すること。
- もう一つのほうしんは、任期が3年ということもあり次期の障害者計画(平成27～29年度)へ反映させられるなどの検討をしていればと考えている。

- ・部会員は自立支援協議会の部会員が多く在籍する形で構成。今後、様々な視点を取り入れていきたいが、初年度は基礎的な課題の共有を進めるために14名に抑えた。今後はオブザーバー参加や例会ごとの資料化などの工夫により、次年度の部会員の広がり、部会の活性化などにつなげることを意識する。
- ・例会は事例報告のみならず、相談支援事業の連絡会の役割や、就労や生活など地域移行にかかる様々な問題を話し合う場として機能させていく予定
- ・今年度の実施計画として、第1回を7月に開催。その後は隔月で実施していく。
- ・例会では、今年度は主に「入所施設からの地域移行」について検討していく。
- ・調査・研究チームとしては、例会と並行して山本会長、芝副会長、大須賀副会長で基本的な枠組みを検討中。「ケアホームの実態調査」を主なテーマにしていく予定

4 その他

事務局から

細井)本日配布の条例の小冊子は、市役所の管理職向けの講習で使用したものです。機会があれば読んでおいてください。

中西)条例の逐条解説はどうなっているか

細井)現在、作成中です。

5 閉会

細井)それでは、司会をしていただいた中西会長ありがとうございました。委員の皆様もお疲れ様でした。これで、平成24年度第1回八王子市障害者地域自立支援協議会を終了させていただきます。今年度もまたよろしく願いたします。ありがとうございました。